夏を乗り切る

主に疫病をはらうために行われている夏の祭り。これらの祭りには、夏を元気に過ごしてほしいという願いが込められています。今回は市指定無形民俗文化財の、五つの祭りを紹介します。

鯨井の万作（八坂神社）
毎年七月十五日前後の日曜日

万作とは豊作祈願の民俗芸能。鯨井の万作は「手踊り」と呼ばれる物です。地区の要所要所で「下妻手踊り」などを披露します。歌に合わせて、子どもから大人まで大勢の人が元気に踊っていました。同時に行われる「天王さまの獅子かつぎ」で疫病よけ、万作で豊作を祈るという、二つの願いが込められた祭りです。

下小坂の獅子舞（白鬚神社）
毎年七月十五日前後の日曜日

獅子三頭・棒使い二人・花がさ四人・仲立ち一人という祭りの主役が、すべて小学生の男の子たちで行われるのが特徴。神社の参道から市天然記念物になっている大ケヤキの下を通り、境内で棒使いによる棒術のあと、獅子舞が始まります。子どもたちの舞いが終わると、全員で境内を回り、手締めで祭りは終了します。

石田の獅子舞（藤宮神社）
毎年七月十四日

年に三回行われる石田の獅子舞。夏の獅子舞は疫病よけの祭りです。後継者不足から中断した時期もありましたが、平成十年から復活。川越まつりで活躍する石田囃子連の演奏に乗せて、獅子舞は下から物を持ち上げるような動作を見せます。この動作が農作物を干すように見えることから「干し物獅子」とも呼ばれているそうです。

まんぐり（上寺山・八咫神社）
毎年七月の第二日曜日

竹に麦わらを巻いた「ぼんてん」。このわらの部分を担ぎ、竹を引きずりながら地区内を駆け回る勇壮な祭りです。蛇行しながら駆け回るため、竹の角が斜めになってしまうほどです。引き回った後は、入間川に「ぼんてん」を立て、水をかけて清めることで住民の無病息災を祈ります。

福田の獅子舞（赤城神社）
毎年七月二十四日前後の土・日曜日

神主を先頭に先獅子・中獅子・後獅子の順番で、地区内を回ります。その際に「四方固め」と呼ばれる疫病よけの札を立てます。横笛の後継者が少なくなったことから、笛の主役を小学生の縦笛演奏にすることで継承しています。また、境内には地区の住民による露店があるのも、子どもたちにとって楽しみの一つです。

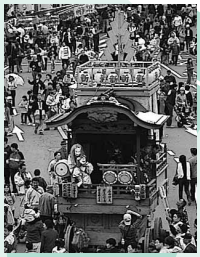
まちのできごと

109パレット

川越市の面積は109.16㎢

現在制作中です！

平成14年から新しい山車で川越まつりに参加している新富町１丁目。ことしは新しく山車人形を制作しています。市にゆかりのある物にしようと、人形は昨年生誕400年を迎えた徳川家光。制作は、市内の人形師に依頼しました。「ほかの町内の山車には、市内の人形師が作った山車人形は乗っていませんから」と祭礼実行委員長の井原信義さん。川越まつりの楽しみがまた増えそうですね。



人形（左）はひな形。完成した人形は、下の山車に乗ります

12日は、学校から本川越駅までの道を清掃しました

私たちもまちの一員です

７月11日から13日まで、川越工業高校の生徒たちが校外清掃活動を行いました。そろいのＴシャツに身を包み、ほうきとちりとりを手に校門前に集結し、いつも使っている道路や学校近隣を清掃。「ボランティアに興味があったから」「何かの役に立てば」と参加した生徒たち。近くに住む方に「きれいにしてくれてありがとう」と声をかけられ、うれしそうでした。

みんないっしょで楽しいね

０歳から３歳までの乳幼児とその家族が、気軽に集まることのできる「つどいの広場」。７月４日から笠幡菜の花保育園、７月11日から川越福祉センター、７月13日から南古谷第二保育園に開設されました。利用した皆さんからは「情報交換や交流ができていい」「にぎやかで楽しい」と評判も上々。今後、市内各所に順次開設していく予定です。

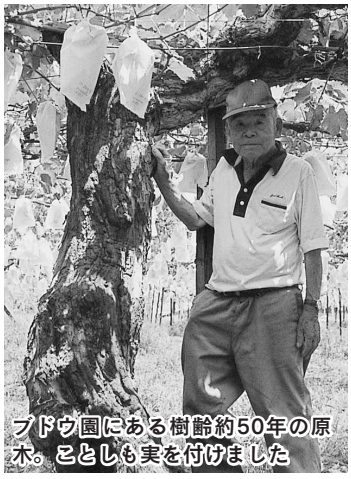
７月19日、川越福祉センターには、10組の家族が集まりました

かわごえ人びと 16

堅木一進さん（83歳・的場）

五十年ほど前、市内で最初に巨峰の栽培を始めた堅木さん。当時、巨峰は雨や病気に弱く栽培が難しいため、生産者から敬遠されていたそうです。それでも、おいしいブドウを作りたい一心で巨峰の栽培を始めました。苦労の末、十年以上を費やして栽培技術を確立。そして、その栽培技術をほかの生産者にも広めた結果、現在では市内で生産されるブドウのほとんどが巨峰です。国内でもブドウ生産の過半数が巨峰になりました。

川越の巨峰は、味がいいそうです。味のよさを知っている人が直接買いに来るため、市内で生産される巨峰の九割以上は市場に出回りません。「おいしい物はすぐになくなります。皆さんよく知っていますよ」と話す堅木さん。半世紀という長い時間をかけて育てられた巨峰。ことしの収穫はもうすぐです。



ブドウ園にある樹齢約50年の原木。ことしも実を付けました

袋をかけて、大切に育てています